

防 除 第 26 号
令和 8 年 7 月 23 日

各 位

三重県病虫害防除所

令和 8 年度病虫害発生予報第 4 号

このことについて、下記のとおり発表します。

担当 三重県病虫害防除所

TEL 0598-42-6365 FAX 0598-42-7568

E-mail byogai@pref.mie.lg.jp

I 予報の概要

農作物名	病 害 虫 名	発生量 (平年比)	農作物名	病 害 虫 名	発生量 (平年比)
イネ	穂いもち	平年並	カンキツ	黒点病	平年並
	紋枯病	平年並		かいよう病	平年並
	白葉枯病	平年並		ミカンハダニ	やや少
	斑点米カメムシ類	やや多		チャノキイロアザミウマ	平年並
	イネクロカメムシ	少	果樹共通	カメムシ類	多
	ツマグロヨコバイ	少	チャ	炭疽病	やや多
	セジロウンカ	少		カンザワハダニ	やや少
	トビイロウンカ	少		チャノミドリヒメヨコバイ	平年並
ダイズ	紫斑病	やや少		チャノキイロアザミウマ	やや少
	コガネムシ類	やや多		チャノコカクモンハマキ	やや少
	ハスモンヨトウ	やや多	イチゴ	炭疽病	やや少
	吸実性カメムシ類	多			

Ⅱ 予報

巡回調査：7月1日から7月8日

イネ

1 穂いもち

(1) 予報内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、穂いもちの発生ほ場率 15.1% (平年 13.2%) と多、発病度 1.59 (平年 0.41) と多 (+)
- 2) 一般ほ場では、やや少からやや多 (概して平年並) (±)
- 3) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想 (－)
- 4) 穂いもちの発生量はやや多と考えられますが、今後の気象条件を考慮して穂いもちの発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 穂いもちについては病害虫防除技術情報第2号 (令和8年6月26日発表) を参考にしてください。
- 2) 穂いもちが上位葉で発生しているほ場では、感染の恐れがあります。発生状況に注意してください。
- 3) これから出穂期となるほ場において、薬剤散布する場合は、出穂始めから穂揃い期に実施してください。
- 4) 特に作期の遅いほ場や、いもち病に弱い品種は、適期防除を徹底してください。

2 紋枯病

(1) 予報内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、発生ほ場率 0% (平年 1.2%) と少、発病株率 0% (平年 0.11%) と少 (－)
- 2) 一般ほ場では、発生量は少 (－)
- 3) 昨年8月の巡回調査結果から、ほ場残存菌核数はやや少と予想 (－)
- 4) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想 (+)
- 5) 前年の発生状況及び気象条件を考慮して、発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 高温多湿条件で発病が助長されます。
- 2) 多肥、過繁茂のほ場では発生しやすくなります。
- 3) 薬剤散布は出穂7日前から10日前に実施してください。

3 白葉枯病

(1) 予報内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、発生ほ場率 0% (平年 0%) と平年並 (±)

2) 一般ほ場では、発生量は少 (－)

3) 現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

1) 常発地では、台風や集中豪雨の直後に薬剤散布してください。

2) 「みえのゆめ BSL」は耐病性の弱い品種なので注意が必要です。

4 斑点米カメムシ類

(1) 予報内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

1) 予察灯での誘殺数は、水田・松阪市（4 月第 1 半旬から 7 月第 2 半旬）ではイネカメムシ 23 頭（平年 26.3 頭）と平年並、ミナミアオカメムシ 114 頭（平年 35.5 頭）と多、アカスジカスミカメ 0 頭（平年 139.7 頭）と少、その他クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ等は少 (－)

2) 巡回調査ほ場では、すくい取りによる発生地点率はホソハリカメムシ 21.6%（平年 15.3%）、クモヘリカメムシ 13.6%（平年 9.5%）、シラホシカメムシ類 12.8%（平年 8.1%）といずれ也多、アカスジカスミカメ 28.0%（平年 26.7%）と平年並、アカヒゲホソミドリカスミカメ 8.0%（平年 9.3%）とやや少。すくい取り成虫数は、シラホシカメムシ類 0.18 頭（平年 0.12 頭）、クモヘリカメムシ 1.66 頭（平年 0.57 頭）といずれ也多、ホソハリカメムシ 0.20 頭（平年 0.32 頭）と平年並、アカスジカスミカメ 1.61 頭（平年 2.03 頭）とやや少、アカヒゲホソミドリカスミカメ 0.13 頭（平年 0.26 頭）と少 (+)

3) 一般ほ場では、発生量はやや少からやや多（概して平年並） (±)

4) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想 (+)

5) 現状の発生量は平年並と考えられ、気象条件を考慮して、発生量はやや多と予想されます。

(3) 防除対策

1) 病虫害防除技術情報第 4 号（令和 8 年 7 月 10 日発表）を参考にしてください。

2) 本田防除の薬剤散布は、出穂直後とその 10 日後に実施してください。

3) 広域での一斉防除が効果的です。

4) 周囲よりも出穂の早い水田及び遅い水田では、被害が集中するので防除を徹底してください。

5 イネクロカメムシ

(1) 予報内容 発生量：少

(2) 予報の根拠

1) 予察灯（4 月第 1 半旬から 7 月第 2 半旬）では、誘殺数は、水田・松阪市 0 頭（平年 9.5 頭）と少、畑・松阪市 69 頭（平年 126.5 頭）と少 (－)

2) 巡回調査ほ場では、発生ほ場率 4.7%（平年 9.0%）とやや少、被害株率 0.19%（平年 0.55%）と少 (－)

3) 一般ほ場では、発生量は少 (－)

4) 一般ほ場の発生状況から現状の発生量は少と考えられ、引き続き発生量は少と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 発生ほ場では、今後出すくみ穂や白穂被害が目立つようになります。
- 2) 常発地で薬剤散布する場合は、株元までかかるように行ってください。

6 ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容 発生量：少

(2) 予報の根拠

- 1) 予察灯（6月第1半旬から7月第2半旬（伊賀市のみ7月第1半旬））での誘殺数は、伊賀市0頭（平年6.8頭）と少、紀北町13頭（平年10.2頭）と多、御浜町0頭（平年20.4頭）と少、畑・松阪市23頭（平年452頭）と少（－）
- 2) 巡回調査ほ場では、発生ほ場率4.7%（平年19.1%）と少、払い落とし成幼虫数0.06頭（平年0.59頭）といずれも少（－）
- 3) 一般ほ場では、発生量は少（－）
- 4) 現状の発生量は少と考えられ、引き続き発生量は少と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 9月上旬までに収穫するほ場では、実害はほとんどありません。

7 セジロウンカ

(1) 予報内容 発生量：少

(2) 予報の根拠

- 1) 予察灯（6月第1半旬から7月第2半旬（伊賀市のみ7月第1半旬））での誘殺数は、水田・松阪市0頭（平年0.5頭）、畑・松阪市0頭（平年17.6頭）、伊賀市0頭（平年4.3頭）、紀北町0頭（平年0頭）、御浜町0頭（平年9.0頭）といずれも少（－）
- 2) 巡回調査ほ場の払い落とし調査では、発生ほ場率1.4%（平年1.6%）と平年並（±）
- 3) 現状の発生量は少と考えられ、引き続き発生量は少と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 株元を注意して観察しましょう。葉鞘が黄変したり、成虫や幼虫が多発したりしている場合は、被害が発生する可能性があるので、早急に防除してください。

8 トビイロウンカ

(1) 予報内容 発生量：少

(2) 予報の根拠

- 1) 予察灯（6月第1半旬から7月第2半旬（伊賀市のみ7月第1半旬））では、畑・松阪市0頭（平年1.8頭）、伊賀市0頭（平年0.3頭）、御浜町0頭（平年0.5頭）といずれも少、紀北町0頭（平年1.4頭）とやや少（－）
- 2) 現状の発生量は少と考えられ、引き続き発生量は少と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 株元を注意して観察しましょう。葉鞘が黄変したり、成虫や幼虫が多発したりしている場合は、被害が発生する可能性があるので、早急に防除してください。

ダイズ

1 紫斑病

- (1) 予報内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
 - 1) 昨年の巡回調査ほ場では、紫斑粒の発生率 0.1%（平年 0.2%）とやや少（－）
 - 2) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想（±）
 - 3) 昨年の紫斑粒発生状況及び今後の気象条件を考慮し、発生量はやや少と予想されます。
- (3) 防除対策
 - 1) これから播種するほ場では、種子消毒を徹底してください。
 - 2) 莢が形成され始めたら、薬剤散布をしてください。

2 コガネムシ類

- (1) 予報内容 発生量：やや多
- (2) 予報の根拠
 - 1) 予察灯（畑・松阪市、4月第1半旬から7月第2半旬）では、誘殺数はドウガネブイブイ 87 頭（平年 165.4 頭）、アオドウガネ 335 頭（平年 383.0 頭）、ヒメコガネ 11 頭（平年 35.1 頭）といずれも少（－）
 - 2) 県予察ほフェロモントラップ（松阪市、5月上旬から7月上旬）では、誘殺数はマメコガネ 170 頭（平年 28.9 頭）、ヒメコガネ 21 頭（平年 5.5 頭）、ドウガネブイブイ 58 頭（平年 47.3 頭）といずれも多（＋）
 - 3) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想（＋）
 - 4) 現状の発生量は平年並と考えられ、今後の気象条件を考慮して、発生量はやや多と予想されます。
- (3) 防除対策
 - 1) 通常は防除の必要はありませんが、多発する場合は加害初期に防除してください。
 - 2) ヒメコガネとドウガネブイブイは夜行性の種のため、夕方に薬剤散布すると効果的です。

3 ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：やや多
- (2) 予報の根拠
 - 1) 県予察ほフェロモントラップ（松阪市、6月第4半旬から7月第2半旬）では、誘殺数は 485 頭（平年 424.0 頭）とやや多（＋）
 - 2) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想（＋）
 - 3) 現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き発生量はやや多と予想されます。
- (3) 防除対策
 - 1) 白変葉を目印として早期発見に努め、若齢幼虫期に防除してください。
 - 2) 発生量が急増することがありますので、防除所ホームページにおいて、フェロモントラップでの誘殺状況に注意してください。

4 吸実性カメムシ類

(1) 予報内容 発生量：多

(2) 予報の根拠

- 1) 予察灯（畑・松阪市、6月第4半旬から7月第2半旬）では、誘殺数は、ミナミアオカメムシ 216 頭（平年 350.5 頭）とやや少、イチモンジカメムシ 102 頭（平年 59.9 頭）、ホソヘリカメムシ 26 頭（平年 6.9 頭）といずれも多（+）
- 2) 1か月予報によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想（+）
- 3) 現状の発生量は多と考えられ、引き続き発生量は多と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 近年、ミナミアオカメムシによる被害粒の多発や、青立ち症状が増加しています。
- 2) 薬剤散布は、9月中旬（開花 20 日後・莢伸長期）と 10 月上旬（開花 40 日後・子実肥大中期）の 2 回散布が効果的です。
- 3) 遅くとも、9月下旬（開花 30 日後・子実肥大初期）までに 1 回目の薬剤散布をしてください。
- 4) 移動性が高いため、広域一斉防除が効果的です。
- 5) エチプロール剤およびジノテフラン剤は、ミナミアオカメムシの殺虫効果が高いことが確認されています。

カンキツ

1 黒点病

(1) 予報内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、果実発病度 0（平年 0.2）と少（-）
- 2) 県予察ほ（御浜町、7月上旬、興津早生、無防除）では、果実発病度 30.5（平年 36.0）と平年並（±）
- 3) 一般ほ場では、発生量は平年並（±）
- 4) 1か月予報によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想（±）
- 5) 現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 薬剤散布を定期的 to 実施し、8月下旬まで感染防止に努めてください。
- 2) 枯枝は感染源となるので、切除に努めてください。
- 3) 薬剤散布後、積算で 200mm 以上の降雨があれば 2 回目の防除を実施してください。

2 かいよう病

(1) 予報内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、温州みかんは発病葉率 0%（平年 0.1%）と少、発病果率 0%（平年 0%）と平年並。中晩柑は発病葉率 0.7%（平年 4.5%）と少、発病果率 0%（平年 0.2%）と少（-）
- 2) 県予察ほ（御浜町、7月上旬、新甘夏、無防除）では、発病葉率 0.9%（平年 4.3%）と少、発病果率 0%（平年 3.7%）と少（-）

- 3) 一般ほ場では、発生量は平年並 (±)
- 4) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想 (±)
- 5) 一般ほ場の結果から現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 果実・夏枝に病斑が見られるほ場では、発病した枝・葉・果実を除去し、薬剤防除を行ってください。
- 2) 防風対策に努め、台風の接近が予想される場合には、直前に防除してください。
- 3) 高接樹や幼木については、ミカンハモグリガの防除も徹底してください。

3 ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、新葉における寄生葉率 0 % (平年 4.3%) と少、寄生頭数 0 頭／葉 (平年 0.23 頭／葉) と少 (－)
- 2) 県予察ほ (御浜町、7 月上旬、興津早生) では、100 葉当り寄生頭数は、無防除区で 0 頭 (平年 8.9 頭) と少、慣行防除区で 76.7 頭 (平年 2.6 頭) と多 (±)
- 3) 一般ほ場では、発生量はやや少 (－)
- 4) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想 (±)
- 5) 現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き発生量はやや少と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 1 葉当たりの雌成虫寄生数が 0.5 頭から 1.0 頭程度を目安に防除してください。
- 2) 高温により活動が停滞する時期ですが、ほ場での発生状況をよく確認し、多発している場合は防除してください。
- 3) 薬剤散布は葉裏にかかるよう、丁寧に散布してください。
- 4) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統の薬剤は連用せず、RAC コードの異なる薬剤でローテーション散布を行ってください。

4 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、被害果率 0 % (平年 0.1%) と平年並 (±)
- 2) 県予察ほ (御浜町、ネーブル、無防除) では、黄色粘着トラップは誘殺数 0.7 頭／日 (平年 3.1 頭／日) と少、100 果当たり寄生虫数は 0 頭 (平年 2.8 頭) と少 (－)
- 3) 一般ほ場では、発生量は平年並 (±)
- 4) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想 (±)
- 5) 現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 寄生果率 10% になった時を目安に防除を実施してください。

- 2) 7月以降は寄生部位が果頂部に移ります。

果樹共通

1 カメムシ類

- (1) 予報内容 発生量：多

- (2) 予報の根拠

- 1) 予察灯（畑・松阪市、6月第3半旬から7月第2半旬）では、誘殺数は、チャバネアオカメムシ 1,821頭（平成913頭）、ツヤアオカメムシ 1,000頭（平成374頭）、クサギカメムシ 173頭（平成102頭）といずれ也多（+）
- 2) 予察灯（御浜町、6月下旬）では、誘殺数は、チャバネアオカメムシ 21,930頭（平成4,912頭）、ツヤアオカメムシ 60頭（平成46頭）といずれ也多（+）
- 3) 巡回調査ほ場では、カンキツほ場での叩き落とし虫数0頭（平成0.008頭）と平成並（±）
- 4) フェロモントラップ（6月第2週から7月第1週）では、チャバネアオカメムシ誘殺数は、山地（津市白山町川口）で1,479頭（平成1,360頭）、中間地（津市白山町二本木）で2,866頭（平成1,493頭）、平坦地（松阪市嬉野川北町）で1,020頭（平成269頭）といずれ也多（+）
- 5) 一般ほ場では、発生量は平成並（±）
- 6) 現状の発生量は多と考えられ、引き続き発生量は多と予想されます。

- (3) 防除対策

- 1) ほ場内を観察し、飛来が認められたら防除を実施してください。
- 2) ほ場（特にナシ、カキ）によっては局所的に飛来してくることがあります。過去に発生が多かったほ場周辺では注意してください。
- 3) ナシ、ブドウの有袋栽培では、袋と果実が密着すると袋の上から加害されることがあります。

チャ

1 炭疽病

- (1) 予報内容 発生量：やや多

- (2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、発病葉数 6.5枚/m²（平成0.5枚/m²）と多（+）
- 2) 一般ほ場では、発生量は平成並（±）
- 3) 1か月予報によると、気温は高く、降水量はほぼ平成並の予想（+）
- 4) 一般ほ場の結果から現状の発生量は平成並と考えられ、今後の気象条件を考慮して、発生量はやや多と予想されます。

- (3) 防除対策

- 1) 感染源は旧葉、感染するのは新芽の上位葉で、新芽生育期に降雨が続くと発生が多くなります。
- 2) 防除時期は1葉から2葉展開期です。
- 3) 整枝による病斑葉の刈り落としも防除効果があります。ただし、葉層の確保と充実も考慮してください。
- 4) 薬剤耐性菌が出現しやすいため、同一系統の薬剤の連用は避けてください。

2 カンザワハダニ

(1) 予報内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、寄生葉率 0.0%（平成 1.6%）と少、寄生頭数 0 頭／葉（平成 0.08 頭／葉）と少、発生ほ場率 0%（平成 31.2%）と少 （－）
- 2) 県予察ほ（亀山市、6月中旬から7月上旬）では、寄生葉率 1.67%（平成 1.60%）と平成並、寄生頭数 0.07 頭／葉（平成 0.10 頭／葉）とやや少 （－）
- 3) 一般ほ場では、発生量はやや少 （－）
- 4) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量はほぼ平成並の予想 （－）
- 5) 現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き発生量はやや少と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 発生が少なければ防除の必要はありません。
- 2) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、同一系統の薬剤の連用は避けてください。

3 チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容 発生量：平成並

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、叩き落とし虫数 1.75 頭（平成 2.4 頭）とやや少 （－）
- 2) 県予察ほ黄色粘着トラップ（亀山市、6月第 3 半旬から7月第 2 半旬）では、捕殺数 82.2 頭（平成 101.2 頭）とやや少 （－）
- 3) 一般ほ場では、発生量は平成並 （±）
- 4) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量はほぼ平成並の予想 （－）
- 5) 一般ほ場の結果から現状の発生量は平成並と考えられ、引き続き発生量は平成並と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 新芽の先が褐変し、ひどい時は芽が硬化し発育が停止します。
- 2) 晴天が続くと発生が多くなります。
- 3) 新芽の萌芽から開葉初期に防除してください。
- 4) 一斉防除が効果的です。

4 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、叩き落とし虫数 0.4 頭（平成 2.4 頭）と少 （－）
- 2) 県予察ほ黄色粘着トラップ（亀山市、6月第 3 半旬から7月第 2 半旬）では、捕殺数 280 頭（平成 803.0 頭）と少 （－）
- 3) 一般ほ場では、発生量は平成並 （±）
- 4) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量はほぼ平成並の予想 （＋）

5) 現状の発生量は少と考えられ、今後の気象条件を考慮して、発生量はやや少と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 萌芽期に加害されると芽の成長が止まり、褐変枯死する場合があります。
- 2) 晴天が続くと発生が多くなります。
- 3) 新芽の萌芽から開葉初期に防除してください。
- 4) 一斉防除が効果的です。

5 チャノコカクモンハマキ

(1) 予報内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、ハマキムシ類巻葉数 0.2 枚/㎡ (平年 1.1 枚/㎡) と少 (－)
- 2) 県予察ほフェロモントラップ (亀山市、6 月第 3 半旬から 7 月第 2 半旬) では、誘殺数 676 頭 (平年 1,530.6 頭) と少 (－)
- 3) 一般ほ場では、ハマキムシ類の発生量は平年並 (±)
- 4) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想 (－)
- 5) 現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き発生量はやや少と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 若齢幼虫期に防除してください。防除適期は成虫発生ピークの 7 日から 10 日後頃です。
- 2) 三重県農業研究所 (茶業研究課) ホームページにて発生状況を掲載していますので参考にしてください。

イチゴ

1 炭疽病

(1) 予報内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、発病株率 0 % (平年 0.1%) と少 (－)
- 2) 一般ほ場では、発生量は少 (－)
- 3) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想 (+)
- 4) 現状の発生量は少と考えられ、今後の気象条件を考慮して、発生量はやや少と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 発病株は感染源となるため、周辺株も含めて速やかに除去し、ほ場外に持ち出して適切に処分してください。
- 2) 薬剤による予防防除を徹底してください。降雨、台風等の前後は特に重点的に防除してください。
- 3) 薬剤耐性菌が出現しやすいため、同一系統の薬剤の連用は避けてください。
- 4) 病原菌を含む水滴の跳ね返りによって感染が拡大します。水滴が跳ね返らないよう、丁寧に灌水を行ってください。

Ⅲ 気象予報

東海地方 1 か月予報（令和 8 年 7 月 16 日 名古屋地方気象台発表）

暖かい空気に覆われやすいため、向こう 1 か月の気温は高いでしょう。期間の前半は、気温がかなり高くなる可能性があります。

1 週目 7 月 18 日～ 7 月 24 日	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
2 週目 7 月 25 日～ 7 月 31 日	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
3～4 週目 8 月 1 日～ 8 月 14 日	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

Ⅳ その他

- ・本冊子の見方を説明した「病虫害発生予報利用の手引き」があります。下記のアドレスからお入りください。

<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/001257461.pdf>

- ・予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表された時に、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<https://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/39475007379.htm>